

広域道路ネットワークの整備と道路施設の老朽化対策について

近畿部会提出
説明担当 東近江市

道路は、社会経済活動と暮らしの安全のために最も重要な社会資本であります。

また、地震や台風に加え、近年、頻度が激増している局地的集中豪雨等の自然災害における避難、救援、復興などを行う上でも最も重要なライフラインとして、道路の重要性が再認識されているところです。

今、必要とされているのは災害に強い国土の強靱化であり、その根幹部分となる道路ネットワークの構築と道路施設の老朽化が課題であることから、平常時、災害時を問わない安全かつ円滑な道路ネットワークの整備と道路施設の計画的な維持管理について下記のとおり要望します。

記

1 名神名阪連絡道路の整備について

北陸自動車道及び伊勢自動車道と一体となり、日本海から太平洋までの南北軸を形成し、東西方向の高速道路ネットワークとの連携による道路網の機能強化やリダンダンシーの確保を行うため、高規格道路として名神名阪連絡道路の早期整備を実現されたい。

2 広域道路ネットワーク計画について

国が策定された「防災・減災、国土強靱化に向けた道路の5か年対策プログラム」の災害に強い国土幹線道路ネットワークに位置付けられている路線について、計画のとおり事業進捗が図られるよう取り組まれたい。また、継続的・安定的に防災・減災、国土強靱化の取組を進めるため、国土強靱化実施中期計画について、現行の対策を大幅に上回る予算を盛り込んだ上で策定し、着実に進められたい。

3 道路施設の老朽化対策について

急速に加速する道路施設の老朽化に対し、定期点検等により確認された修繕が必要な道路施設の対策を直轄国道において確実に実施されたい。また、県や市町村管理の道路においても同様の対策がとれるよう支援されたい。